様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　6 月　 7 日現在

機関番号：３７１０９
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５３０８６１

研究課題名（和文）　学校にカリキュラムマネジメントを定着・促進させる教員研修の開発

研究課題名（英文）　Development of teacher training programs that establish and promote curriculum management in schools

研究代表者
田村　知子（TAMURA TOMOKO）
中村学園大学・栄養科学部・講師
研究者番号：９０４３５１０７

研究成果の概要（和文）：カリキュラムマネジメントを学校に定着・促進させることが求められている。その方法論のひとつとして、カリキュラムマネジメントを主題とする教員研修の内容・方法を開発した。開発・実施した教員研修については、受講者を対象として、研修直後の質問紙調査や一定期間後の追跡調査を行い、その効果を検討し、改善を加えた。その結果、理論と実践事例を往還する解説や、理論枠組みであるリキュラムマネジメント・モデルを用いた受講者の勤務校の実態分析および改善策の検討の有効性が確認された。

研究成果の概要（英文）：Teacher training programs conducted by the government or school boards are regarded as a method to develop and promote curriculum management in schools. Some contents and methodologies for the teacher training concerning curriculum management are developed and curried out in this study. We examined the results of the questionnaire surveys and follow-up surveys on teacher training programs with the aim of improving the programs. The following means of efficiently improving the programs were identified: 1) Explaining the concept and theory of curriculum management in terms of case studies of some schools; 2) Analyzing and evaluating the practices of the trainee teachers' schools by using the curriculum management model; and 3) Designing the strategy for improving curriculum management.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：カリキュラムマネジメント、教員研修、カリキュラム論、教育経営学
科研費の分科・細目：教育学

キーワード：カリキュラムマネジメント、教員研修、スクールリーダー
カリキュラムマネジメント・モデル、研修パック、ワークショップ型研修

１．研究開始当初の背景

わが国においては、1998 年学習指導要領改訂を直接の契機として 1999 年頃に創設されたカリキュラムマネジメント論は、2003 年中央教育審議会答申以降、教育課程行政においてその必要性が繰り返し指摘されてきた。2008 年学習指導要領改訂内容に対応するためには、ますますカリキュラムマネジメントの必要性は高まり、2004 年に開始された独立行政法人教員研修センター「カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」の他にも、各地の教育委員会・教育センター等におけるカリキュラムマネジメントを主題とする教員研修の実施が増加していた。しかし、カリキュラムマネジメント論はその新しさゆえ、理論構築途上にあった。実践上も、学校の教員間でのカリキュラムマネジメントへの認知度や実践化の度合いは低かった。そして、カリキュラムマネジメントに関する教員研修についても、開発途上にあった。

２．研究の目的

教員研修を、カリキュラムマネジメントを学校に定着させる方法論のひとつとみなし、より実効性の高い内容・方法を開発することを目的とした。研修受講者が、研修後に学校においてカリキュラムマネジメント行動を起こすための条件を明らかにすることも目的とした。

３．研究の方法

(1)カリキュラムマネジメントに関する研修に対するニーズ調査。独立行政法人教員研修センター「カリキュラムマネジメント指導者養成研修」受講者および他の２県の教育センター指導主事を対象とし、研修が必要な対象者、研修に含めるべき内容について、ニーズ調査を行った。

(2)独立行政法人教員研修センターおよび各地の教育センター等で実施されるカリキュラムマネジメント研修の内容・方法の開発・実施に携わり、研修実施直後の質問紙調査および研修数ヶ月後の追跡調査を実施した。得られたデータをもとに、効果の検証および効果を引き出した要因の検討を行った。調査結果は研修プログラムの改善に反映させた。この過程を研究期間中に繰り返した。

(3)(2)の内容・方法には、カリキュラムマネジメント・モデル（田村 2009、図１）を活用した勤務校のカリキュラムマネジメント実践の分析・評価が含まれるが、当手法については特に、受講者対象の質問紙調査や、受講者が書き込んだワークシートの分析を行い、その他の分析手法（学校が設定した項目によるアンケート、口頭による話し合い、KJ 法、SWOT 分析など）との比較において有効性や特性を検討した。

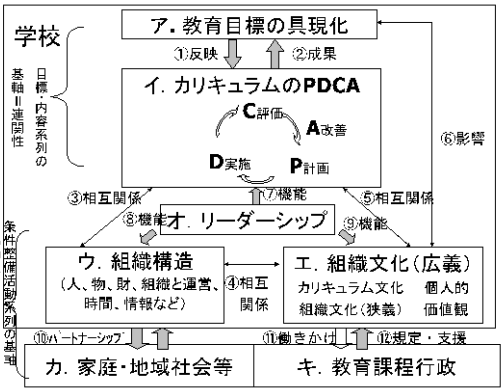

図１：カリキュラムマネジメント・モデル（田村 2009）

(4)カリキュラムマネジメントの実践事例の収集と分析。研修受講者が理論を理解するために実践事例の提示が有効であることが明らかになったため、平成 20 年改訂学習指導要領に対応した教育内容の先進的実践事例を収集し、カリキュラムマネジメントの理論枠組みで分析した。

４．研究成果

(1)学校現場におけるカリキュラムマネジメント研修のニーズが明らかになった。

①研修対象：第一に教務主任等のミドルリーダー層、次いで管理職層、一般教諭層が研修対象者と想定されている。

②研修内容：カリキュラムマネジメント論への理解がカリキュラムマネジメント行動の前提となるため、研修においては、概論や意義の解説が必要である。ただし、概論や意義を理解するためには、具体的な実践事例をあげての解説が必要である。その上で、具体的なスキルの提示が求められている。研修対象別では、管理職は概論の理解、ミドルリーダー層は概論に加えて具体的なスキルの習得が求められる傾向にある。

(2)短期の集合型教員研修における効果的な研修内容・方法が明らかになった。また、研修後に勤務校においてカリキュラムマネジ

メント行動を実行するための条件が明らかになった。

①短期の集合型研修において受講者が習得可能な力量は、概念の理解をベースとしたカリキュラムマネジメント・マインドの獲得、カリキュラムマネジメントのスキルに関する知識理解である。また、勤務校の実態分析方法および改善策の策定方法の習得や、勤務校でのカリキュラムマネジメント実践実行化へのモチベーション喚起も可能である。これらは、勤務校において、受講者によって獲得された知識が活用され、力量が発揮される前提となる。

②①に対して有効な研修内容・方法としては、概念の提示、実践事例の提示、具体的なスキルの提示、参加型の研修方法による勤務校の実践の分析・評価（課題の抽出）や改善策の策定、研修受講者間の情報交換等の組み合わせである。特に実践事例は、概念の理解を助け、具体的なスキルを提示し、勤務校の課題抽出のための比較対象となり、改善策策定の際のヒントになりうるため、有効である。

③研修受講者が勤務校への帰任後にカリキュラムマネジメント行動を実行化することに対して促進的に機能する研修運営上の工夫は、同一校から複数名の参加、講師等からの事後の支援や研修内容を深めるための資料等の提供が有効である。カリキュラムマネジメント行動実行化のための勤務校側の条件は、学校管理職の支援、学校のポジティブな組織文化、時間の確保がある。

(3)カリキュラムマネジメント・モデルを活用した勤務校の実践分析は、あらかじめ設定した評価項目による評価や自由記述、口頭での話し合い、KJ 法等に比較し、有効性が認められた。当該手法は、カリキュラムマネジメントへの理解を促進する。また、学校の強みや課題を抽出する点においては、SWOT 分析とほぼ同等の効果がみられたが、特にカリキュラムのマネジメントサイクルに着目を促す点に特徴がある。また、カリキュラムマネジメント・モデルを分析・評価用ワークシートとして活用する場合は、モデルの要素に「児童生徒の実態」を記入する枠組みが必要であることが明らかになった。

(4)(2)で述べた通り、実践事例の提供はカリキュラムマネジメントの理解や研修後の実行化の促進において効果的であるため、平成 20 年学習指導要領改訂に対応した教育内容の先進的実践校のカリキュラムマネジメントの事例を、実践校の管理職や教員の協力を得て収集し、カリキュラムマネジメントの理論的枠組みによる分析・評価を加えて、事例集を作成した。

(5)以上の研究成果である研修内容・方法、研修資料、研修用ワークシート、実践事例などについては、書籍、雑誌論文、ホームページ等で世に広く提供した。また、教育センター等で実施される多くの教員研修において研究代表者自身を含めた研究者や教育センター指導主事等によって実践化されている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 30 件）

① 田村知子、カリキュラムマネジメントに関するミドルリーダー研修の開発と評価、九州教育経営学会紀要、査読有、第 18 号、2012、印刷中、DOI: ISSN：1882496X
② 田村知子、カリキュラムマネジメントの理論と実践を深め広げるストラテジー(25)-カリキュラムマネジメントを学校に促進・定着させる教員研修(3)、教職研修、教育開発研究所、査読無、6 月号、2012、pp. 107-110、
DOI： ASIN:B007EWCGSG
③ 田村知子、カリキュラムマネジメントの理論と実践を深め広げるストラテジー(24)-カリキュラムマネジメントを学校に促進・定着させる教員研修(2)、教職研修、教育開発研究所、査読無、5 月号、2012、pp. 105-108
DOI： ASIN:B007EWCGSG
④ 田村知子、カリキュラムマネジメントの理論と実践を深め広げるストラテジー(23)-カリキュラムマネジメントを学校に促進・定着させる教員研修(1)、教職研修、教育開発研究所、査読無、4 月号、2012、pp. 109-112、
DOI： ASIN:B007EWCGSG

〔学会発表〕（計 17 件）

① 田村知子、カリキュラムマネジメントの理論と実践、日本カリキュラム学会、2012 年 3 月 17 日、中部大学
② 田村知子、カリキュラムマネジメント・モデルを利用した自校分析の提案、日本教育工学会、2012 年 3 月 3 日、山口大学
③ Tomoko Tamura・TakeakiNakadome・Tetsuo Kuramoto・Etsuko Soga, Workshop-style Lesson Studies as a Tool of Curriculum Management,The World Association of Lesson Studies, International Conference 2011,2011 年 11 月 27 日,東京大学

④ 田村知子、カリキュラムマネジメント指導者のための研修パッケージの開発, 日本カリキュラム学会, 2011 年 7 月 17 日、北海道大学
⑤ Tomoko Tamura, The Process of Developing Lesson Studies in a High School Framework on the Basis of the Theory of Curriculum Management, The World Association of Lesson Studies International Conference2010, 2010 年 12 月 9 日, Universiti Brunei Darussalam
⑥ 田村知子、カリキュラムマネジメントに関する教員研修の実施とその効果の検討、日本教育経営学会、2010 年 6 月 5 日、静岡大学

〔図書〕（計 5 件）
① 田村知子編著、ぎょうせい、実践・カリキュラムマネジメント、2011、195
② 村川雅弘・田村知子・東村山市立大岱小学校編著、ぎょうせい、学びを起こす－授業改革困難校をトップ校へ導いた“大岱システム”の奇跡、2011、195

〔その他〕
ホームページ等
http://www.nakamura-u.ac.jp/~totamura/study1.html

６．研究組織
(1)研究代表者
田村　知子（TAMURA TOMOKO）
中村学園大学・栄養科学部・講師
研究者番号：９０４３５１０７

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：